

未来の  
ために、  
いま選ぼう。

**札幌市みんなで考える  
気候変動対策会議  
(札幌市COOL CHOICE 推進チーム)**

**実施報告書**

**札幌市環境局環境計画課**

## ■目的：

札幌市の取組状況や地域特性等を踏まえ、より札幌市民に適した危機意識の醸成や市民の行動変容を促すため、市内の様々な立場のステークホルダーから構成される「札幌市COOL CHOICE推進チーム」を立ち上げ、各ステークホルダーと問題意識を共有することで、温暖化対策のための効果的な普及啓発手法や連携施策のアイデアについて意見交換を行うとともに、温暖化対策のみならず、SDGs達成や環境省が提唱する「地域循環共生圏」の構築に資する、来年度以降の具体的な取組内容について検討することを目的とする。

## ■日程・会場：

	日程	実施場所
第1回	1月20日（月） 16:00～17:30	札幌市役所 10 階 市長会議室 （札幌市中央区北1条西2丁目）
第2回	2月6日（木） 17:30～19:45	札幌市民交流プラザ 4階 控室402 （札幌市中央区北1条西1丁目）
第3回	2月12日（水） 17:30～20:00	TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階 すみれ （札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館 5階）
第4回	2月27日（木） 17:30～20:00	L・PLAZA 札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室1・2 （札幌市中央区北8条西3丁目）
第5回	3月5日（木） 17:30～20:00	L・PLAZA 札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室1・2 （札幌市中央区北8条西3丁目）

※2月27日（木）と3月5日（木）の第4回、第5回会議は、新型コロナウイルスの感染拡大が複数報告されていることを受け、参加者の安全を考慮した結果、参加者が集合する形での開催はやむなく中止とした。

## ■「札幌市みんなで考える気候変動対策会議」（札幌市COOL CHOICE推進チーム）メンバー：

氏名	所属等（五十音順、敬称略）
■チームリーダー：秋元 克広（札幌市長）	
■チームメンバー	
小池 淳	朝日新聞北海道支社 管理部長
渡邊 大介	株式会社アレフ エコチーム リーダー
根岸 恒佑	株式会社エフエム北海道（AIR-G'）
小路 楓	任意団体omusubi代表（北海道大学大学院環境科学院）
高岡 さくら	任意団体omusubi（酪農学園大学）
熊田 芽依	市立札幌開成中等教育学校
富谷 湖雪姫	市立札幌開成中等教育学校
田邊 日菜花	市立札幌開成中等教育学校
上石 三鈴	市立札幌藻岩高等学校
佐藤 亜海	市立札幌藻岩高等学校
鈴木 昭徳	生活協同組合コープさっぽろ 組織本部 グループ長
今野 久	D C Mホームマック株式会社 CSR委員会 主任
宮野 賢之	株式会社東急百貨店 札幌店 販売推進担当係長
山川 沙知子	株式会社東急百貨店 札幌店 広報担当マネジャー
小西 亜矢子	株式会社ニトリパブリック 札幌営業部 事業開発チーム 商品開発リーダー
岡本 剛	株式会社ニトリパブリック 札幌営業部
小松 希	株式会社ニトリパブリック 札幌営業部
田部井 茉里	パタゴニア アウトレット札幌南
島田 さな	藤女子高等学校
曾我 梨花子	藤女子高等学校
武田 香歩	北星学園女子高等学校
マツト 光	北星学園女子高等学校
佐久間 理奈	北海道ガス株式会社 総務人事部 広報グループ 主任
皆川 和也	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部長
関口 裕士	株式会社北海道新聞社 編集局 編集委員
四宮 康雅	北海道テレビ放送株式会社 社長室
兎澤 和幸	北海道放送株式会社
影浦 賢治	北海道放送株式会社
斎藤 楓	立命館慶祥高等学校
■アドバイザー[ホスト]（みんなの気候変動ゼミ・ワークショップ メインファシリテーター）	
牧原 ゆりえ	一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ

## ■アドバイザー[ホスト]（みんなの気候変動ゼミ・ワークショップ メインファシリテーター）：

### 牧原 ゆりえ氏

（一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ代表）

1997年国際基督教大学を卒業後、大手監査法人に公認会計士として勤務。出産を機にサステナビリティに強い関心を持つようになる。2009年家族でスウェーデンへ渡り、2つの修士課程で学ぶ。留学中に会った北欧発の参加型リーダーシップトレーニングArt of Hostingの

実践者であり、「ていねいな発展（Human Scale Development）」翻訳者。

女性のインナー・リーダーシップを探究するプログラムComing into your own (CIYO)Japan ファカルティ。2016年より札幌移住。



スウェーデンの大学院と小さなまちでの暮らしから学び、いいなと思った暮らしを生き、伝え、やってみる場を作る。地域創成のための参加型合意形成の基礎になるグラフィック・ハーベスティング、ホールシステムアプローチを用いた地域社会の女性と若手の集合的な潜在能力を育むホスティング、スウェーデンの科学者が合意形成により形にしたサステナビリティ戦略フレームワークを伝える。

## 第1回会議

日時：2020年1月20日（月）16:00～17:30

場所：札幌市役所10階 市長会議室（札幌市中央区北1条西2丁目）

内容：開会

開会挨拶

委員自己紹介

議事

(1) 「札幌市みんなで考える気候変動対策会議」

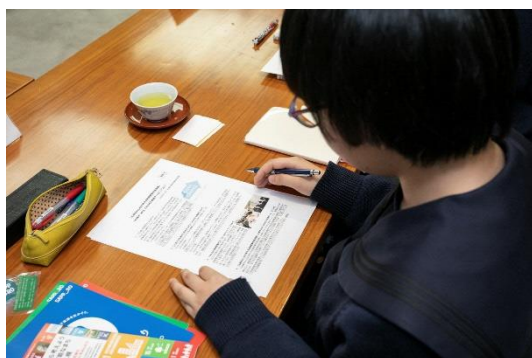
(札幌市COOL CHOICE推進チーム) について (趣旨説明)

(2) 札幌市におけるCOOL CHOICEの推進について (事業報告)

(3) 今後の気候変動対策について (意見交換)

閉会

### 【会議の様子】



## 【委員自己紹介】（順不同）

<b>小池 淳</b> 朝日新聞北海道支社 管理部長	2019年は2回、さっぽろ創世スクエアで、SDGsに関わるイベントを開催した。この会議では学びつつ、何か役に立ちたい。
<b>渡邊 大介</b> 株式会社アレフ エコチームリーダー	今年の「えごりん村」の犬ぞり大会は、少雪のため開催が危ぶまれている。異常気象を実感している。
<b>根岸 恒佑</b> 株式会社エフエム北海道	メディアとして、気候変動に関する活動を広めるバックアップをしていきたい。
<b>小路 楓</b> 任意団体omusubi = 北海道大学大学院 環境科学院修士課程	omusubiのメンバーとして、持続可能な社会づくりに関わる問題や若者の相互支援の活動を行っている。
<b>高岡 さくら</b> 任意団体omusubi = 酪農学園大学	omusubiの副代表として活動し、大学では気候変動に関する研究もしている。
<b>鈴木 昭徳</b> 生活協同組合コープさっぽろ組織本部グループ長	フードバンクやSDGsを担当し、自社でSDGs研究会も開催した。民間連携は進んできたが、若い人たちの考えを聞いてみたい。
<b>今野 久</b> DCMホームマック株式会社CSR委員会主任	植樹活動のほか、省エネや地球温暖化対策の活動をしている。協力できることから始めていきたい。
<b>宮野 賢之</b> 株式会社東急百貨店札幌店 広報担当マネジャー	買い物を通じてエシカル商品やSDGsを来店客に意識付けを図っている。一緒に考えて、行動に移していきたい。
<b>山川 沙知子</b> 株式会社東急百貨店札幌店 広報担当マネジャー	環境に配慮した商品や行動の提案をしているほか、毎年、豊平川の清掃活動も行っている。若い世代の意見を取り入れ、地域に根差した百貨店として、できることを考えていきたい。
<b>小西 亜矢子</b> 株式会社ニトリパブリック札幌営業部事業開発チーム 商品開発リーダー	ニトリの商品開発担当をしており、環境に優しい素材を使ったエコマイバックやバイオ由来のレジ袋の開発を行っている。レジ袋の有料化を機に、更にエコな商品開発をしている。
<b>田部井 菜里</b> パタゴニアアウトレット札幌南	登山やサーフィンなど動力を使わないスポーツの製品を扱っている。消費の在り方を考えたとき、気候変動対策は欠かせない。生活に密着した色々なことをみなさんと考えていきたい。
<b>島田 さな</b> 藤女子高等学校2年	北海道札幌Blue Earth Projectのリーダーとして、環境啓発活動を行っている。たくさん情報を発信し、たくさんのかんことを吸収したい。
<b>曾我 梨花子</b> 藤女子高等学校	北海道札幌Blue Earth Projectのメンバーで活動している。様々な意見を聞いていきたい。
<b>マツト 光</b> 北星学園女子高等学校	Fridays for Future Sapporoのメンバーとして活動している。大人にはできないこと、高校生だからできることをともに頑張っていきたい。
<b>武田 香歩</b> 北星学園女子高等学校	Fridays for Future Sapporoのメンバーとして活動している。今年の札幌は雪が少ない。札幌市も気候非常事態宣言を出してもらいたい。世界的にも一歩進んで見える活動を協力して起こしていきたい。
<b>佐久間 理奈</b> 北海道ガス株式会社総務人事部広報グループ主任	エネルギー供給会社として、二酸化炭素を出さないエネルギー計画と消費者の省エネの促進を広報している。環境問題などについて、考えを深めていきたい。
<b>皆川 和也</b> 北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部長	環境問題、食の安全と健康、地域社会の3つを主体にCSR活動を推進している。1社ではできないことを連携した取り組みで実現していきたい。
<b>関口 裕士</b> 株式会社北海道新聞社編集局編集委員	10年以上前から原子力発電の動きを追い、記事にしている。若い人の取組や考えを吸収し、紙面で紹介していきたい。
<b>四宮 康雅</b> 北海道テレビ放送株式会社 社長室	地域社会の未来に貢献することが当社のミッション。SDGs推進のためにも皆さんと協力して、少しでもいい解決策を見つけていきたい。
<b>影浦 賢治</b> 北海道放送株式会社	ラジオ局を担当し、歩くスキーや雪祭りなどの屋外イベントにおける気候変動を実感している。できることを実践しながら、テレビ、ラジオを通して伝えていきたい。
<b>斎藤 楓</b> 立命館慶祥高等学校	今年の夏ごろから札幌市のホームレスなどの生活困窮者を支援する活動をしている。SDGsに関しては初心者だが、自分なりに貢献したい。

## 【第1回会議での意見等】

- 札幌市には「気候非常事態宣言」を出してもらいたい。今冬の異常気象は環境問題だけでなく、経済にも打撃を与えている。世界的に見ても一歩前進できるような活動を起こしてほしい。  
(武田氏)
- Fridays for Future Sapporoはスウェーデンのグレタさんから始まった活動で、札幌では毎週金曜日、パルコ前に立って、高校生でもできることを発信している。大人は何もしてくれないではなく、一緒に変わっていくことが大事だと思っている。  
(マツト氏)
- 廃棄物ゼロ社会の実現には札幌市だけでなく、地域、企業、市民が一緒になって取り組むことが必要だ。  
(皆川氏)
- オープンイノベーションを時代のキーワードとして、共に作る、共に働くことができる解決策を考えるべきである。  
(四宮氏)
- ブルーアースプロジェクト（Blue Earth Project）は神戸の松蔭高校から始まった環境活動で、学校ではサークル的に活動している。他校とも連携していきたい。  
(島田氏)
- 若者に気候変動問題を自分事として思ってもらえるような仕掛けが必要。学生や若者を支援してくれる大人（企業）がいることも発信すべき。  
(小路氏)
- 私立高校だけでなく、公立高校の学生にも参加してほしい。  
(今野氏)
- リスク社会の今、私たちはもはや中庸の選択ではなく、極端な選択をとるしかない。気候変動対策も同じで、私は対策を試してみたいと思った。  
(斎藤氏)
- 札幌市には当会議での意見を着実にアクションにつなげてほしい。  
(関口氏)

## 第2回会議

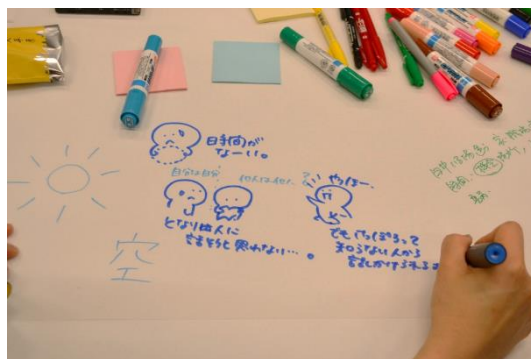
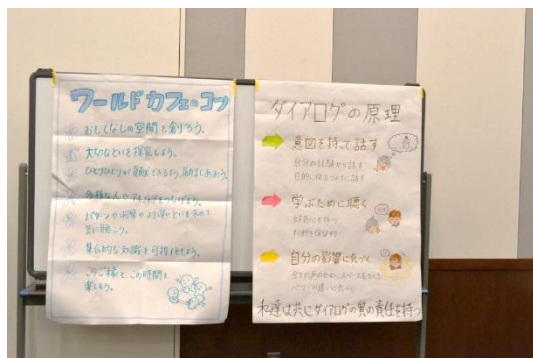
日時：2020年2月6日（木）17:30～19:45

場所：札幌市民交流プラザSCARTS 4階 控室402（札幌市中央区北1条西1丁目）

内容：「相互理解を深めるワールド・カフェ」

ファシリテーター[ホスト] 一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ 牧原 ゆりえ氏

### 【会議の様子】





## 【第2回会議での意見等】

### Q1 違う組織の人どうし、違う学校の人どうし、違う立場の人どうして、話したいことを自由に話せる機会がなんか少なすぎない？ に対して、どんな『そりゃそうでしょ。だって…』を感じますか。

- 違う立場の人同士だと、共通の話題を見つけにくいから。
- 普段は人づかれしていて、外に出ようとしないので。積極的に外に出ていく必要がある。
- お互いにレッテルを張り合っている。
- 各コミュニティでの壁があるように感じる。高校生では制服、校風など交流のきっかけがない。
- 話しかけない方がいいオーラをみんな出しているから。
- 感じます。地域・コミュニティのつながりが稀薄であることが一番の外的要因。  
内的な要因としては、自分が積極的に違う立場、組織の人に触れようとしていないため。
- 自分が変わって、関わりをいこうとしないと、そういう機会がない。
- 得た機会をつかまえつづける！ 逃がさずに。
- 過ごしてきた年月で縁がないから。
- いろいろな立場が壁になっているかな？ 話せる機会を得たくても、その機会が無い。探せない。それが「だって」の理由かも？
- 行動する。時間、立場が違い、機会創出がされていない。
- 会社をせおっているから。怒られるとイヤだな。会社での立場があぶなくなる？
- きっかけが必要。違う環境にはなかなか踏み出さない。
- 時間や自分の立場を考えると、違う立場の人と話す機会を見つけられない。または有効に使えない。
- 違う立場の人どうしだから、「共通点がない」と思ってしまう、気づかないうちにおたがいバリアを作ってしまったから。
- 横のつながり（近所付き合い、他の学校など）が少ない。昔はもっと関わりがあったのに。  
価値観、考え方が同じ人で集まってしまう。
- 共通の話がない。とか、集まる場もないよな。
- 話す理由がない。Ex)興味があるから…、つき合いがあるから…
- 自身の背負うもの（学校・企業のイメージなど）にしばられているため、自由に話せないから。
- 会社や団体、それぞれ所属する所を代表して来ているから…。
- 共通項がない→最初に行動する人がいない（今回の札幌市のような…）。
- 共通のテーマ・年代、所属を超えて共有できることを話せる場があれば、ヒントを得て、ムーブメントになるかも？
- それぞれ仕事、勉強etc.自分の事だけでも忙しく、違うコミュニティにとび込む時間も元気もない。
- 時間とルールを守ることで対価を得ているから。あとは、勇気がないから。

## 【第2回会議での意見等】

### Q2 仮に私たちがその気持ちを越えてタッグを組むことができれば、札幌市でどんなことが可能になると 思えますか。

- やめられること、いらないことを正直に言う的活動。か、その逆。
- みんながハッピーになる解決策でスピード感をもって、“カッコいい”札幌市になれる。
- 学生の「あれがしたい」を大人が叶えてくれる。協力してくれるようになる。大人・企業⇔小中高生。  
みんなが世界のことを考えられるようになる。
- 育った、生れた環境もあると思うけど、札幌の人は「おっとり」している。それはもったいない事で、もっと良く出来るはず。  
そんな気持ちで考えられると、楽しくなるかも。
- 何が問題なのか、目線を合わせることができれば、たいいていのはできる。受け身をなくすこと。
- 企業同士がライバルになるのではなく、協力した事業ができる。→互いのメリットが必要。  
環境へのアプローチと共にビジネスも行っていく。
- 少人数でやっても効果が小さいものが大多数で、取り組むことによって、ゴミの減量や環境美化などに大きな効果を生むことができる。
- 一人ひとりができることをする。カッコいい町になると思う。
- 高校生また、行動をおこしたい人たちをサポートできる。実現できるようになる。
- たくさんの課題を挙げて、お互いの立場や得意とする分野で助けあうことが出来る。  
そのためには、大きなゴールを共有して（望むと）、いどむと、環境危機に立ち向かえる。ex:札幌市非常事態宣言。
- 部分部分を対応する。
- 大人が子供（若い人）を支える。わかい人が大人を支えるなど、どう関係が生まれ、どんどん視野が広くなり、不可能だと思っていたことが可能になっていく。新しい発見をすることができる。
- 自分ごとが増えて、もっと大きな課題にとりくめるようになる。
- レシートもレジ袋も消えて、手間も減るし、ゴミも減る！
- 世代を超えて社会にメッセージを発信することができると思う。
- 環境問題をはじめ、様々な問題が解決の方向に向かうと思う。具体的には…非常に難しいが。
- 札幌市の魅力を市民が理解し、行動にうつす。一人一人のいしきUP！
- まっすぐな高校生とそれを助ける大人が話せるきっかけをつくること。
- 学生を主体とした行政、企業とつながったイベントをする。
- 違う立場だからこそ、新しいアイデアが生み出せる。
- お互いに足りないものを補い合って、新しいものを生み出すことができるかもしれない。
- 過剰なサービス、廃棄物が減り、過ごしやすく、環境にもやさしく、人にもやさしい街になる。
- それぞれ持っているアイデアを出しあえば、エコバッグとか、レシートいらなくてか。
- 行政と企業と学生のおしゃれすぎるイベント。

## 【第2回会議での意見等】

### Q3 なぜ今この時代に、立場の違う私たちが集まって、『みんな』で話をしようとしているのだろうか。

- このままではまずい…！
- 共通の課題
- 共通点を見つけ出すため。
- 色々な意見、解決策が必要だから。
- 価値観の違いを越えて、課題解決に向けてアクションをしなければならないから。
- 自分の意見を参考にしてもらえる（反映される）
- 次の世代のために、できる人ができることをする。
- できることから始めよう！
- 意見を聞いたり、話したりすることがキッカケで、新たな何か生まれるかもしれないから。
- 立場の違う人と話して、新しいものを生み出すため。
- 一人一人の考えを見える化するため→そこから何か生まれるかも！
- いろいろな考え方を知ることによって、みんなが幸せになるきっかけを作りたいから。

## 第3回会議

日時：2020年2月12日（水） 17:30～20:00

場所：札幌市民交流プラザSCARTS 4階 控室402（札幌市中央区北1条西1丁目）

内容：「自分のこと、PROJECTのこと」を考え、ポジティブに話し合うワークショップ」

ファシリテーター[ホスト] 一般社団法人サステナビリティ・ダイアログ 牧原 ゆりえ氏

### 【会議の様子】



## 【第3回会議での意見等】

No.1	
目的	食品ロス削減 活動する団体の支援 廃棄を減らして、燃えるごみを減らす、CO <sub>2</sub> 削減
実施内容	売れ残ったけど、食べられる食材を捨てずに有効に活用してもらおうプロジェクト
時期（いつ）	2020年6月ぐらいまで
場所（どこで）	子ども食堂、高校の学校祭
誰と一緒に	なまら食堂 北星女子高校社会問題研究会 龍谷高校インターアクト部 えごりん村
その効果	生ごみを出さないレストランの在り方を考える。 燃やされるごみから、胃袋に入って喜ばれるものになる。 売上は使った人たちの活動費にする。
参加できそうな PROJECT	

No.2	
目的	使い捨てプラ容器の削減 イベント等で大量に使用されている食品提供用のトレイやカップの削減 リターナブル容器の普及
実施内容	さっぽろオータムフェストで容器持参の来場者にザンギ1個サービス リターナブル容器の貸し出し、販売実績に応じたインセンティブ
時期（いつ）	2020年のさっぽろオータムフェスト
場所（どこで）	さっぽろオータムフェスト10丁目会場（お肉じゅっ丁目）
誰と一緒に	会場出店者、会場管理者
その効果	・おいしいものを楽しむイベントで罪悪感なく、おいしいものを食べて、幸せになれる。
参加できそうな PROJECT	

No.3	
目的	SDGsを当たり前の社会に！
実施内容	SDGsのカードゲームでの学校の授業 メインカラー17色をまとったSDGsアイドルによるPR
時期（いつ）	2030年までに
場所（どこで）	
誰と一緒に	
その効果	SDGsの概念のもとに行動することで、気候変動への解決だけでなく、社会や世界全体が幸福になる。
参加できそうな PROJECT	・ステンレスストローの発信

No.4	
目的	再エネに転換された社会の構築
実施内容	
時期（いつ）	2023年まで（1年ごとにバックカasting）
場所（どこで）	札幌市から北海道へ
誰と一緒に	札幌市、企業、市民
その効果	再生可能エネルギーに近づき、当たり前の社会になる
参加できそうな PROJECT	・CO2アプリ、マイステンレスストローなど学生発信の活動

## 【第3回会議での意見等】

No.5	
目的	札幌から話題性のある環境問題の発信
実施内容	ラジオを利用した学生が行っているプロジェクトの支援 アプリによる気候変動への貢献度に見える化
時期（いつ）	2020年中
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	高校生+企業
その効果	アイラブニューヨークキャンペーンのような話題性
参加できそうな PROJECT	

No.6	
目的	無駄遣いが恥ずかしくなるような社会づくり
実施内容	CO <sub>2</sub> 削減アプリの開発 タクシーや自家用車を使わず、公共交通機関を利用した時やマイボトル、エコバッグを使った時に その効果がわかる仕組みづくり
時期（いつ）	今すぐ
場所（どこで）	日本国内
誰と一緒に	仕組みは企業がつくり、市民と協働
その効果	イイことに見える化
参加できそうな PROJECT	・プラットフォームづくり

No.7	
目的	授業との垣根をなくし、みんなにSDGsを届ける
実施内容	ちょっとおいしい給食 カードゲームツアー S a p p o r oマイカップ計画
時期（いつ）	
場所（どこで）	札幌市内の全小学校
誰と一緒に	会議のメンバー、学校の先生、おいしいご飯が作れる人
その効果	SDGsがカタイものではないことを伝え、価値観が共有できる
参加できそうな PROJECT	・見える化アプリ ・白と緑と青のまちづくり

No.8	
目的	プラスチックと紙のカップをなくし、100年生きられる札幌のまちづくり
実施内容	札幌市オリジナルのマイカップを制作し、市民が利用すると、SAPICAにポイントがたまるシステムづくり 市内にグリーンゾーンを設け、自転車で走るまちづくり
時期（いつ）	2020～2023年
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	札幌市と共鳴する企業、市民
その効果	ハッピーの互惠、“健幸”ライフの札幌の実現
参加できそうな PROJECT	・CO2削減見える化アプリ

## 【第3回会議での意見等】

No.9	
目的	暖房の室内温度設定を下げる
実施内容	部屋着セーターを流行らせるプロジェクト ・タレント性のあるモデルを起用し、メディア、媒体（雑誌）も巻き込んで、イベントを展開。 ・SNSによる発信。
時期（いつ）	
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	札幌市、アパレルメーカー、各メディア
その効果	室内でセーターやパーカーを切ることがカッコイイ、可愛いというムーブメントが起き、ウォームビズにつながる
参加できそうな PROJECT	・カードゲームツアー ・さっぽろオータムフェストでのエコプロジェクト

No.10	
目的	環境の話をするのが当たり前になる習慣の啓蒙
実施内容	量り売りの普及
時期（いつ）	2023年
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	札幌市、スーパー、飲食店、学校、マスコミ
その効果	白と緑と青が一番美しいまちづくり
参加できそうな PROJECT	・自分自身が気候変動を自覚すること

No.11	
目的	緑豊かな土地をつくる 省エネの啓発
実施内容	荒れた土地に植樹をして、森をつくる ・メッセージカードを販売して、木を植える
時期（いつ）	春～秋にかけて
場所（どこで）	野幌森林公園、花フェスタの会場
誰と一緒に	園児、学生
その効果	森林保全・生物多様性の保護
参加できそうな PROJECT	・SDGsカードゲームへのブースの提供

No.12	
目的	群像で「気候変動」を考える
実施内容	気候変動に関するあらゆるテーマを実現している人、サポートできる人たちが集まり、取り組める枠組みを準備する。
時期（いつ）	2020年7月
場所（どこで）	札幌市役所、区役所の会議室
誰と一緒に	札幌市民（個と組織）
その効果	多様性が群れる社会づくり
参加できそうな PROJECT	・プラスチックフリーなまちづくり

## 【第3回会議での意見等】

No.13	
目的	動物と人間を守る
実施内容	量り売りの実施 一人一人の意識改革 幼稚園での紙芝居
時期（いつ）	2020年中（9月まで）
場所（どこで）	札幌市内のスーパー、コンビニ、パン屋さん
誰と一緒に	スーパー、コンビニなどの企業、札幌市民
その効果	プラスチックフリーな札幌の実現
参加できそうな PROJECT	

No.14	
目的	クリーンでエコな街・札幌をつくる
実施内容	学校や企業で使用しているクリアファイルを再生紙製に替えるクリーン作戦 エコ活動への参加の見える化（ポイント制の導入） 札幌市の魅力＆課題を学ぶ勉強会の実施（年4回）
時期（いつ）	2021年度中
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	札幌市の企業、学校、地域から各10名程度を選抜（勉強会）
その効果	
参加できそうな PROJECT	・無意識を自覚する ・群れる

No.15	
目的	目に見える、誰もが見られる記録を残す
実施内容	メール機能を活用した投稿サイト
時期（いつ）	学校の春休み以降
場所（どこで）	札幌市内
誰と一緒に	札幌市民（意識の高くない人も参加できる仕組みづくり）
その効果	
参加できそうな PROJECT	・プラットフォームづくり

No.16	
目的	子どもたちに伝えたい
実施内容	子ども向けのワークショップ ・紙芝居を使った気候変動についての勉強 ・白熊の着ぐるみの活用
時期（いつ）	夏休みまたは冬休み
場所（どこで）	札幌市内の児童会館
誰と一緒に	自分、武田さんと協力してくれる企業、児童と保護者
その効果	子どもたちが気候変動を自分事として考えることにつながる
参加できそうな PROJECT	・DCMホームマックの植樹活動



## 【第3回会議での意見等】

No.17	
目的	自覚する（無意識に行っていることを意識し直すことで、新たな発見や改善点を見つける）
実施内容	子どもや高齢者向けのワークショップ ・終活セミナーでの気候変動対策の告知（高齢者向け） ・クリーン作戦（豊平川でのごみ拾い）
時期（いつ）	今から
場所（どこで）	家庭、店
誰と一緒に	冷暖房に依存しがちな人、レジ袋や割りばしを断れない人
その効果	「エコってかっこいい！」という意識改革
参加できそうな PROJECT	・知恵の共有・場の提供

No.18	
目的	プラスチックごみ、紙ごみの削減 ・女性が喜びそうなステンレスストローを開発し、SNSで発信する
実施内容	Myステンレスストローの普及
時期（いつ）	主に夏（カフェの需要時期）
場所（どこで）	札幌市内のカフェ、飲料を提供している飲食店
誰と一緒に	カフェを利用する人、ストローをデザインしてくれる企業
その効果	プラスチックや紙ストローがカフェからなくなる
参加できそうな PROJECT	・SDGsカードゲーム ・食品ロス削減プロジェクト

No.19	
目的	オープンイノベーション（知恵の共有）
実施内容	プラットフォームづくり 産官学民によるマッチング（困り事を抱えている側と解決方法を持っている側がスムーズに出会える場をつくる）
時期（いつ）	
場所（どこで）	札幌市
誰と一緒に	行政主体
その効果	さまざまな主体がタッグを組むことによる相乗効果
参加できそうな PROJECT	

No.20	
目的	生分解できないごみを出さない、ごみの処理のエネルギーとコストの削減
実施内容	食品保存容器を持参して買い物する（主食・調味料） 瓶を持参して、牛乳を購入する 靴や家具は修理・リペアしながら長く使ってもらう
時期（いつ）	すぐにスタート
場所（どこで）	食品スーパー、イベント
誰と一緒に	食品スーパー、イベント主催者
その効果	量り売りの普及、パッケージレスな社会
参加できそうな PROJECT	・SDGsのカードゲーム